

オーディオ実験室収載

SACD を聴く

1. SA11-S2 の導入の経過

SACD のかかるプレイヤーは現在マランツの SA11-S2 があり、その経過は GPS-777 クロック入力トランスポートの導入のシリーズで報告しています。

[http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/GPS-777
クロック入力トランスポートの導入 1HP 収載\) 1.pdf](http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/GPS-777%20クロック入力トランスポートの導入%201HP%20収載%201.pdf)

しかしながら、SA11-S2 では SACD についても外部クロックが入るもの、EMT などの CD プレイヤーで外部クロックを入れて CD 層を聴く方が音に躍動感があり、SACD 鑑賞には遠ざかっていました。

今回、周辺の振動対策などが進んできたことと、SACD のアナログ出力を DA-3000 に入力してリアルタイムに DSD 変換することが可能となるなどのインフラが整備されたことから、SACD を聴きなおしてみることにしました。

2. SACD 再生の試聴方法

マランツの SA11-S2 は下記の外部クロック入力仕様を持っていますので、GPS-777 から 176.4kHz を入力します。

SA11-S2 の外部クロック入力仕様

44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz 1V - 5Vp-p (75 Ω)



再生ルートは次のルートで行いました。

SA11-S2(176.4KHz) → DA-3000(44.1KHz) → MYTEK DIGITAL 192-DSD
(DA-3000 よりクロック供給)

ここで SA11-S2 には GPS-777 からクロックを供給し、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給します。上記のうち、MYTEK DIGITAL 192-DSD、GPS-777、ABS-7777 などがアクションパッドなどの振動対策を施しており、ケーブルはすべてリベラメンテシリーズに変わり、何よりも DA-3000 で DSD にリアルタイム変換し

て MYTEK DIGITAL 192-DSD に SIDF 伝送するなどの効果が加わっているはずです。

3. SACD 再生の音質評価

埃をかぶったままあまり聴いてないいくつかの SACD 盤を取り出して聴いてみましたところ、以前の印象が結構変ってきていることが分かりました。しかしながら、CD 層と聴き比べると確かに細かい音は良く出ているものの音楽にのめり込めるようなところは、CD を DSD 変換して聴く場合には及びません。また、同じマスターのアナログと比べると SACD は DSD だからアナログに近いという一般に言われていることにはギャップを感じます。一例を挙げるとアンセルメ／スイスロマンドのファリヤの三角帽子は、ESOTERIC のリマスターSACD より ESOTERIC のリマスターANAログ盤が良く、さらに London のオリジナルアナログ盤には鮮度感が及びません。

これが、SACD の本来のポテンシャルか、リマスターの問題なのは不明で、DSD 録音された最新の SACD を聴いて確認する必要がありそうです。

4. まとめ

いろいろな周辺の対策の結果、以前とは随分印象が変ってきていますが、SACD 盤の手持ちが限られており、評判の良い SACD を探してみる必要がありそうです。

以上